

大統領弾劾後の韓国情勢と 日韓関係の展望

慶應義塾大学法学部教授
西野純也

- * 尹大統領を巡る弾劾と刑事訴追の行方
- * 非常戒厳令発令に関する尹大統領の説明
- * 現状では大統領罷免の可能性が高い
- * 罷免後に予定される大統領選挙はどうなるか
- * 世論調査の数字が示す野党の優位
- * 改善傾向の日韓関係は維持出来るか
- * 日韓関係で石破政権に求められるもの
- * 大統領選後の早い段階で首脳会談の実施を
- * 最新の世論調査からみる日韓関係
- * 対韓姿勢の厳しいトランプ政権との関係



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、慶應義塾大学法学部教授で、東アジア研究所長、それから、朝鮮半島研究センター長の西野純也先生をお招きいたしました。

韓国は政局、政情激しい国ではありますけれども、昨年12月3日に尹大統領が戒厳令を宣布いたしました。これは44年ぶりのことでしたけれども、戒厳軍が国会の敷地内に入るようなことまで起きまして、これは今までと比較してちょっと次元の違うことが起きたと考えることができると思います。実際、大統領が内乱首謀罪で起訴されましたけれども、現職の大統領が刑事事件で起訴されたというのも韓国の歴史上初めで、実際、大統領がいなくなってしまうというような状況で今韓国は国を運営しているとい

うことです。これは韓国の国際的評価にもつながることですし、また、韓国の経済ですとか安全保障問題にも関わることだと思っております。日本は隣国ですので、これも他人事ではなくて非常に重要な問題をはらんでいて、われわれも注視して見ていかなければならない状況だと思っております。

3月中旬に尹大統領の弾劾審判の可否、罷免されるか弾劾が却下されるかということがはっきりしますし、それから、今、次の大統領のいちばん候補になっていきますという注目されている方は最大野党の共に民主党の李在明代表ですけれども、この李さんのほうも公職選挙法違反の控訴審がありまして、これが3月26日に判断が下されるということで、この3月というの